

Mitsui Fudosan

三井不動産 Story

日比谷が、
町だった頃を知っているその顔は
なんだかとても豊かに見えた。

東京 日比谷の小さな路地に
小さな食堂がある。
有楽町町会の副会長の曾根さんはその店をやりながら
この町の移り変わりを80年見つめてきた。
しばらく話を伺っていると
何度もひとの流れという言葉がでてきた。
ビルがひとつ出来るたびに
この町のひとの流れは大きく変わってきたそうだ。

曾根さんら日比谷界隈のひとたちと
三井不動産チームや周辺の企業は
新しいひとの流れをつくる活動をしている。
日比谷バルナイト。
いくつかの店をクーポンをもってまわれる食のイベントだ。
店同士の横のつながりが生まれ、
お客さんの開拓心もりあがる。
再開発の進む日比谷にとって
ひとの流れはとても大切なものだ。
それは街に風を連れてくる。
気持ちいい風の吹く街はそうして生まれる。

「新しいビルができてその町に馴染むまで、
だいたい1年はかかるんですよ」

曾根さんは新しい日比谷の話を楽しそうに聞いたあと、
そう言って笑った。

いい街には、物語がある。

